京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
▲一ヶ月金三十錢 ▲三ヶ月金九十錢 ▲六ヶ月金一圓七十五錢 [illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 京城新報社 [illegible]
仁川支局 仁川本町三丁目 [illegible]
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●朝鮮東海魚族調査

[illegible]談

鯛、白魚も亦朝鮮の特產なり[illegible]も內地產に比して[illegible]日本海にて出雲以北[illegible]にて伊勢より以北[illegible]は九州有明灣に產するものとなる[illegible]朝鮮に於ては更に一種を增し[illegible]は[illegible]の白魚は釜山より[illegible]迄に至る東海岸に產するもの[illegible]鎮海灣特產の白魚[illegible]に產するもの[illegible]北即ち大洞江鴨綠江等に特產する[illegible]、三種を有し專ら韓人の專漁に屬するの傾向なるも有利なること勿論にて切に當業者の注意を促さんとする者なり

五、此の外明太魚の豐富なるあり鯖、鰆、鰤、サンマ、鰈、カニも亦頗る多く其の盛漁期に一網七萬の鯛を得たる如き實例ありブリの如きも內地產に比すれば美味なりといひニシンも露領沿海州より推し寄すること少なからず以上の事實は北韓海面が如何に好個の漁場なるかを知るべし故に將來に囑望して速かに當局の保護と當業者の施設を希望して已まざるなり而して特に急務として大書すべきは南北の變通及森林なり其の變通は北韓の水產販路の運命にかゝるのみならず一般南北の漁價に影況して市場の漁價をして常に平衡を得せしむると同時に國產の發達に資すべき經濟上の必要條件あるものなり事實に於て北韓の現狀は少しく大漁あれば忽ち魚價を失するの有樣なるが京元線完成開通の曉には漁場としての北韓は正に面目を高むべきは火を見るよりも明かなり森林に就ては格別漁業上直接の影響を來たすものに非ずと雖も間接に潮水の調節を促すを以て從つて魚族の集散に關係あり加之一帶の地味磽角にして禿山殊に甚だしく山野共に荒涼を極むる上に於て開拓上適切の必要あるものなりとす（つゞく）

●温突迷語錄（二）

歪の權太

◎人間は感情の動物なると共に一方又勘定強き動物なり。感情と勘定と此二者が調和融合して圓滿に發達した角する者こそ所謂常識の人にして社會發達の發動機は常に此種の人間に依てのみ操縱せられ保護せられ油を差されつゝあるあり一片の感情に損益の計算勘定を忘るゝ如きは氣違か世間知らずの[illegible]然らざれば阿呆に縁近き[illegible]とて又人事の總てを[illegible]げんとする如き徒[illegible]前者は猶は愛すべ[illegible]膨欲非道のアイヌ[illegible]と雖も而も彼等[illegible]舞臺に於ける一つ[illegible]子方に過ぎずして[illegible]したる交渉あるも[illegible]

◎されど茲に厄介なる一問題あり、感情若しくは勘定なるものが斷然此二者より超越せざるべからざる政治上の權力的關係と結び付きたるの場合即ち之れなり、一國の政治と其局に當るべき役人の任命が二三元老連の氣に喰はぬ或は飴からぬてふ卑劣なる主義題目の下に料理され翻弄されたりとせば奈何、蓋し世上之れ以上の厄介有らざるべし。

◎淸國擾亂の結果遂に共和政體の現出を見る如き事あらんかひゐて我國民の思想上に惡影響を來すべければ此際宜敷滿朝の尻押を爲して革軍を掃蕩すべしてふ奇說を爲すの元老連ありと、蓋し甚だ不都合なる老人連と云ふべし、何となれば彼等は國民思想上の大問題は措て情き理非も辨別せず利害の計算も爲す能はずして唯一國に若い者の跋扈が氣に喰はぬ癪に障るてふ天保式感情の發揮が支那までにも及ばんとするものに外ならざれば也。

◎長い物には卷かれて仕舞へ、とは權力の腦頭が感情的に傾き又は勘定的に偏したる場合之れに對する非權力者の唯一の消極的防禦策なるを知らざる可からず、失敬な奴だ生意氣な野郎だと云ふ如き些々たる惡感情も一旦之が特殊の權力を有する人の頭腦に宿らんか忽ち形を變し方式を改め一猛烈なる復讐を企てらるゝもの也故に警察署に出頭して理窟の一つも云つて見んとする程の者は豫め道路妨害又は擧動不審などの法律の弊穴あるを覺悟せざる可からず、新聞紙はた追從を爲さゞれば兎に角發行停止の厄に遭ふ事を察せざる可からず、停止されし後に於て彼れか是れかと記事の詮議を爲す如きは寔に憐む可き記者其人の迂濶なるのみ

外事一束

▲伊軍 總進軍を開始しアナザーラに土軍の根據地を占領し土軍總退却を爲す

▲保險 案大多數を以て下院を通過し一般公衆同案の法律と成れるを恐懼す

▲加州 に排日說起るも同州會外務委員會は排日決議案を通過せざるに決す

▲英國 兩陛下愈々東洋未曾有の華麗なる光景裡にデリー城へ入城を行へり

▲蒙古 人の特使露都に到る蓋し蒙古を露國保護の下に置ん事を希望する也

▲波斯 形勢緩和し政府及び排露派の首領も露國の占領を許さん模樣なりと

▲米國 大統領タ氏議會に外交に關する敎書を下す其の要旨は第一土耳其と

▲伊國 と波斯と露との關係淸國四國借款の說明日本の朝鮮併合問題說明等

▲ダ海峽開放を專らにせんとの意嚮は決して土國に渡せし事なしと露國云ふ

▲南歐 伊及び希臘の諸新聞は昨今頻りに希臘のクリート島合併論を主張す

▲蘭和 兩國のチモル島に於ける國境は今日漸く特別協約の下に解決すと

新年和歌募集

勅題「松上鶴」 選者九皐館去留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事、但投詠者は住所氏名御明記の事

一、締切期限來る十二月二十日

一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は奮つて御投詠あらんことを

京城新報編輯局

梁川庄八

小金井蘆洲演

第五十四回

瀧庭主水は臣下一同に對つて庄八の事を語た所が、杉浦要助段々物語を承はつて席を進み出で 杉『此討手の義は我々四人に仰付け下さるやう、願ひまする假令草の根を分けても、彼を捜出して、乾度庄八の首を討取り香華の代に御前に手向け、御主君周防樣の御怒を晴したう存じまする、是非此役目を仰付け下さるやう』主水『妙じき其方の言葉、定めて父上は草場の陰にて悅ぶであらう、併しながら里見家は假にも天下の諸侯である、其方等は當家の陪臣何うも釣合が惡いから談判が捗取るまい、此上は何とかして我が主君政宗侯の御使者を一人拵へて其方共へ差添へるの外に良策はない、奧羽兩國の旗頭伊達政宗の家來が主命を帶びて討手に赴くとあらば、里見家にてもよもや庄八を匿ひ、或は彼を取逃すやうな事は出來まい、幸ひ宮田兵庫是れは我が御父上の取立にて、當時食祿千石を食み目付役を勤めて居るに依り、此兵庫を賴んで、政宗侯の御使者と云ふ名義にして遣はしたらば、其方共にも討取り易いであらう』と卑怯な考へを起しまして、いよ〳〵兵庫を附添へて遣ることに決し、先づ四人には其儘休息させ、宮田兵庫を呼んで內意を傳へました、此宮田兵庫と云者は至つて阿諛の奴で、前の瀧庭周防に諂らつて、出世を遂げ、大前千石と食祿を貰つて當時目付役を勤めて居ります、此男を呼んで話をした、固より諂かな宮田の事でありますから、容易く之を承諾致し 兵『拙者儀は殊に先君の御寵愛を蒙り、斯く出世致した、其御恩に報ゆるは正に此時にある、就ては私は今日から病氣と僞り家に閉籠つて居る體に裝ふて出發致しますから、不在中は當家は宜しくお頼み申します』主水『委細承知致した然らば庄八討取の儀は宜しく頼むぞ』そこで兵庫は病氣届を出して御役を引き、而して病氣中は自宅に引籠りて、專ら療養手當をして居る體に裝ひ、杉浦要助、內山孝吉、南八郎、朔月大輔の附添ふて、いよ〳〵仙臺表を發足し、程なく房州館山の城下に乘込みまして、城下の旅店に宿を取り、梁川の樣子を聞くと、いや大層な評判だ打寄迄が噂をする、翌朝宮田兵庫は伊達政宗侯の使者と號し、家老流山將監の邸を訪ふた『扨は梁川庄八討手の來りしか』と流山將監は早速宮田兵庫に對面に及びまする、家老流山將監は宮田に面會して來訪の趣意を尋ぬると 兵『三ヶ年前奧州仙臺に於て、謂れもなき私の怨を以て、老臣瀧庭周防を討取り國禁を犯せしのみならず、破牢逐電致したる大罪人、梁川庄八をば御當家に於て御雇入に相成り、御家中の子弟に武術教授を致させ居り候由、主君承はり以の外に存じ候、遠し彼れ庄八は如何なる事を申立て、貴藩を欺き、御家中の者に武道指南を致し居り候やは存せぬが、甚だ以て不埒千萬の振舞ひ、右の次第ゆへ周防の忰主水より家來四人を差向け、親の仇乃至國禁を犯せし大罪人を討取りたき旨願出で候處、主君も如何にも尤もの次第なりとて、今般拙者を檢視役として、當國へ出張仰せ付けられたるにより態々罷越し候次第、就ては御雇入れの梁川庄八を引取り、當地に於て彼れを討取り、其首級を實檢致さんの心得、一には國法を正し又一つには首級を瀧庭周防の墓前に手向けて靈魂を慰め、且つ又家來共の忠義をも顯はさせたう存ずるにより、此義然るべく安藝守殿へ御取次下さる樣願上げ候』と四人の名刺を添へて出しました所、流山將監『當家に於ては左樣な者とは存じ不申、雇入れたる次第、只今承はつて驚き入候、就ては一應梁川庄八を呼出し、彼の陳述を聞取りたる上にて、何分の御返答仕るにより、夫迄は御旅宿に御引取下されたし、只今公の申さるゝ通り、彼れは當家に召抱へたる者にあらず、何時たりとも雇を解くと云ふ、兼て契約であるに依て、取敢ず右の次第を一應本人に申聞け、又主人の御意向を伺つて後ち御挨拶致すでござらう』とて其日は宮田兵庫を引取らせました跡で、正木岩瀨の老臣協議を致した所が、何れも梁川の意見を尋ねた上に擧措するがよかろうと云ので、早速梁川庄八を呼んで、右の趣きを申聞けました。

東京電報

▲津聯隊出動說　伊勢の津發電報によれば同地の步兵第五十二聯隊は其筋の電命に接し將校下士卒約六百名にて一隊を組織し近々清國に向け出發すべしといふ

▲大藏證券發行　十一日大藏證券二千萬圓發行されたり

▲選擧法改正調査　衆議院議員選擧法を改正し中選擧區とし選擧權を擴張せんとする選擧法改正調査會官制發布されたり內閣內務等議院關係官吏以外に兩院より各十名宛委員たるべし

▲印度皇帝戴冠式　十二日印度デリーにて英國皇帝の印度皇帝たる戴冠式擧行さる

▲清國沿岸の我海軍　清國沿岸に於ける我海軍の派遣艦數は二十六隻三萬五千噸なり

北京特電

▲媾和談判場　革命黨は上海を以て媾和談判地となさんとの希望を齎らせしも北京政府に於ては之に同意せず殊に英國公使は最も之れに反對したるを以て漢口の英國總領事館內に於て官革兩者の媾和使會見する事となりしとの說あり

▲石家庄警戒　直隷新軍五千餘名は十日石家庄一帶警戒のため資深關に派遣せらる

▲陳參議を辭す　陳寶琛は媾和參議員を固辭す

▲袁は媾和熱望　袁世凱は媾和を熱望し唐紹怡を武昌に派遣し黎元洪と會見せしめたるが尙は外人を介して講和の成立を計らむとし武昌に於ける各國領事の意嚮を探らしめつゝあり

▲英國和議に斡旋　英國も和議の成立を希望し上海武昌間の各領事をして斡旋せしめ居れり

▲西安在留外人窮狀　一支那人が乞食に扮裝して米國公使館に齎らせし外人書信によれば陝西省西安府にては瑞典宣教師スヰト氏及外國人合計八名殺害せられ又鮮人の殺さるゝ者多く暴徒は銀行を襲ひ掠奪をなしたる爲め各地より西安府に引上げし外國人七十五名は外出交通を嚴禁せられをれりと

▲張勳の消息　張勳は兵六千を率ひ革命軍の北上を防止せんとす徐州附近に於て戰鬪あらん

▲媾和談判開始　官革兩軍の講和談判は十二日より開始さる

▲北京現在守護兵　因に北京守護兵は六千の外姜桂題の手兵步軍統領及び民政部巡警兵のみなり

上海電報

▲媾和悲觀說　講和談判の成行に關しては日英の兩國斡旋最も力むれども結局不調に終るべしとの悲觀說多し

▲安徽兵武昌へ向ふ　上海領事發電に依れば革命軍の總建、建安の二軍艦は一萬五千の安徽兵を搭載せる船を率ひ武昌へ向へり

鮮報

●鮮鐵連絡加入問題　南滿東清貨客連絡運輸に關し將來朝鮮鐵道並に安奉線をも加入せしむべしとは已に過般の露都會議に於て略ぼ內定し居る問題なるが此程大屋鮮鐵長官宛右の旨照會する處あり我鐵道院にても非常に贊成せる等兎に角我國の意見としては加入に一致せる事素よりなれば明春早々東京に開かるべき同會議には無論議題に付せらるべく露國側も異議を挿むべき理由なきを以て之れ亦た双方間の協議成立すべく遲くも明年夏頃迄には實行の運びとならんとの事なり

●大阪商船活動　再度迄朝鮮臨時線を增設せし大阪商船會社に於ては今回北鮮明太魚其他の出廻りを期とし釜山元山間の新航を增設することゝなり同社船隅田川丸は來る十八日より同航路に從事し同時に來る中旬韓國共同郵船會社より借入るべき汽船漢城號を以て釜山木浦群山間の南鮮航路を開始し釜山元山間の航路との連絡をとり又同社の別働隊とも云ふべき釜山商船組にては釜山濟項間の三日航路を開始することに決定せりと

●年末金融と各銀行　京城　年末金融狀況の一般に就き市內各銀行に就き聞き得たるところを綜合すれば內地人側は恰も內地移入品の掛代金決濟期に當ると氣候例年に比し溫暖なる爲め防寒具等の需要者割合に少く諸工事亦徒らに竣工を急がざる爲め材料品の買入れを急がず且つ一般の氣風地味となりたる爲め市況一般に振はず搗て加へて移入超過の影響を受け金融は前日に比し稍繁忙を極め金利引締り居るも未だ逼迫といふ程度には達し居らず而も末日に至らば或は多少の繁忙を見んも測られず又た朝鮮人側は其の決濟期の舊曆に依るを以て內地人側に比し金融に多少の餘[illegible]買出しの爲め多く[illegible]放出し爲めに金融[illegible]資本家等も畏失[illegible]或は責田借等に依[illegible]得たる爲め徒らに[illegible]買措み米價益々騰[illegible]に買出しを手控[illegible]て銀行等より借出[illegible]るの現象を呈し[illegible]融の稀かなるを見[illegible]現象を持續すべし[illegible]

●保安規則無視　[illegible]港饌酥料理店業[illegible]當該官憲の認可[illegible]るものを組織し[illegible]を試み且つ會員[illegible]ゝあるは明かに[illegible]るが同地當該官[illegible]爲に對し何等取[illegible]

●定例長官會議　[illegible]總督府に於て定[illegible]政務總監、倉富[illegible]菊地の各部長官[illegible]岡本通信の兩長[illegible]長代理、俵副總[illegible]爲し正午散會し[illegible]

●商業會議所臨時[illegible]　[illegible]業會議所にては[illegible]歸京を待つて來[illegible]の臨時總會を開[illegible]を開くべしと云[illegible]

●京城投資　建物會社[illegible]式會社京城派[illegible]開くに同所出[illegible]引受、土地建物[illegible]賣買紹介、土地[illegible]れど其の主とす[illegible]目なるが其の第[illegible]人を問はず土地[illegible]築せんと欲する[illegible]屋を建築し其の[illegible]當として受取り[illegible]卸せしむるもの[illegible]却期限は一ヶ年[illegible]は年一割二分朝[illegible]が昨年十一月京[illegible]以來今日迄一ヶ[illegible]は七十萬圓餘に[illegible]ては內地人三分[illegible]といふ割合にて[illegible]ては商店居宅共[illegible]額に於ては商店[illegible]同所事業の如き[illegible]と反比例をなす[illegible]に於ては常に經[illegible]つゝあるものあ[illegible]賜公債に依り一[illegible]なりとはいふもの、米穀[illegible]ざ現金回收時期の遲延せ[illegible]九月以來漸次緊迫を來しつ[illegible]經濟界不況なるを以て同所[illegible]事業上に警戒を加へつゝあ[illegible]開數なりと

●醫學傳習所の近況　總督府醫[illegible]醫習所の近況を聞くに現在[illegible]五十名にして生徒は熱心に[illegible]れも從來朝鮮に於ける醫[illegible]しを得り從つて學業の成[illegible]といふ尙卒業後は實地具[illegible]年間位は醫院に留め置き[illegible]ものは獨立開業し又は他の[illegible]事となるが何れは早晚[illegible]に變更さるべく其の曉にい[illegible]の組織も改正さるゝにいた[illegible]ふ

●朝鮮學生數　內務部調　[illegible]人子弟を教育すべき各道官[illegible]學校（設立の認可を受け未[illegible]に至らざるものを除く）[illegible]生徒數を聞くに左の如し[illegible]一師範附屬一、公立學校二[illegible]校、私立五十九校生徒數男[illegible]六百五十一人女二千百六十[illegible]

朝鮮の靜養地（二）　總督府醫院森安博士談……

△溫陽溫泉　[illegible]は泉質無色透明にし[illegible]るを以て溫泉としては極め[illegible]も惜むらくは夏に熱く冬[illegible]ふるに濁口少なき割合に引[illegible]きを以て溫泉場として將來[illegible]を爲すことは不可能ならん[illegible]夏に熱く冬に冷たきは之れ[illegible]して引用個所の多きに依る[illegible]能は溫泉場の常として脚氣[illegible]梅毒、子宮其の他諸病に効[illegible]へど先づ神經衰弱、心臟病[illegible]可なるべし而同地は四邊皆[illegible]なく川なく氣溫京城と異な[illegible]四邊の風物極めて無趣味な[illegible]爲的に靜養者の精神を慰む[illegible]を作らざるに於ては其の無[illegible]者の永く擋へ得るところに[illegible]し現に予は這回滯在中或る[illegible]其の無聊に苦しみ居るの嘆[illegible]たり而して同地は昨今のご[illegible]病人の靜養地としてよりも[illegible]地として世人より思惟され[illegible]するに將來に於ては後者は[illegible]前者の靜養地として一般世[illegible]るゝにいたるを希望せざる[illegible]

▲東萊溫泉　[illegible]泉質溫陽溫泉と同じ[illegible]にして炭酸質に富み溫度は[illegible]より百四十度の間にして神[illegible]病等に宜し此の溫泉は溫陽[illegible]多き爲め普通引泉個所の多少に依りて差して溫度に高低を示すが如きことなし地勢は一方山を控へ且つ空氣新鮮にして氣溫暖かなるを以て靜養地としては馬山に亞ぐの佳所たり溫泉場は三個あり何れも相當に設備され一方娛樂機關としては玉突場等の設けあるも要するに此の地の設備も溫陽と同じく普通風流客の樂園地としては好適せるも患者の靜養地としての設備にいたつては未だしされど近來病後の靜養者にして追々此の地に赴くは喜ぶべきことなり而して予は馬山にせよ溫陽にせよ果た東萊にせよ所謂靜養者に對しての設備の一日も早く行はれん事を望まざるを得ず忌憚なく言へば叙上の三溫泉地とても平素の係腸を洗はんとする風流客にあつては宿錢其の他都會の如きは敢て意に介するものあらざるべきも實際身体の靜養者に取つては聊か不廉に失するの嫌ありされば予は是等の靜養者の爲めに其の滯在期間の長短に依り

△旅館の宿料及雜費を割引し且つ能ふべくんば外國の例に倣へ其の病狀の如何に依り旅館に於て之れが食物の献立をなすを可とす而して又一方靜養者の便宜を圖り其の地に家屋を作りて間貸をなし靜養者をして隨意に自炊をなさしむるを要す而して靜養中の無聊を醫するため其の附近に高尙にして趣味多き娛樂機關を設くるを宜しとす尤も這は予一個の理想とするところにして之れが完全なる實行を望むは無理なるべしと雖も少くとも之れに近き設備をなすにいたらば單に靜養者に取つて利益なるのみならず一面に於て其の地の繁昌を促すにいたるべきは言ふ迄もなし尙予は來春にいたらば更に他の地方を踏査し聊か朝鮮に於ける靜養地を世に紹介せんとす云々（了）

●税關廢休斷行　既報南大門稅關出張所にては從來通關貨物にして停滯の虞あるときは休日を廢して事務を執り來りしが本月は極月の事とて貨物多く加へて聯合大賣出等あり旁多忙を極むるより京城會議所の請願を俟つ迄もなく係員一同は本月一日より廢休して事務に從事しつゝありといふ

●仁川民會開設　十二日夜開會の筈なりし仁川居留民會は出席者少數の爲め流會となり十三日午後四時より開設す

●鮮人と電信技手　通信管理局にては從來諺文に關する電信は朝鮮人をして取扱はしめ居れるが却々に成績好く昨今通信技手として各道の郵便電信局に奉職するもの多數ありといふ最も京城仁川釜山の如き內地人の多き都會の電信局にあつては內地人技手取扱ひ居るが追つては鮮人技手をして和文をも取扱はしむべしといふ

●年賀郵便取扱　京城郵便局にては來る十五日より例年の通り年賀郵便特別取扱ひを開始す

●各民團債最近調　最近の調査に係る朝鮮各民團々債を聞くに京城二十七萬六千七百五十圓仁川十五萬一千三百三十二圓群山二萬五千圓木浦十五萬圓馬山三萬四千五百圓大邱二千五百五十圓平壤五萬六千五百六十九圓元山四萬五千圓釜山二百二十一萬圓合計二百九十六萬一千六百〇一圓なり

●渡邊國分兩氏の着釜　既記の如く渡邊高等法院長國分高等法院檢事長の一行は十二日朝釜山着直ちに京釜列車にて當地に向いたる旨其の筋に電報あり

●外波少將の出發　外波少將は豫定の如く十二日朝南大門驛發赴任したり停車場には文武官民數十名の見送り盛也

花山森林に關する實地調査報告（其二）

特派記者

▲森林の區分　李王職は田島彥四郎に枯損木を拂下ぐるに付いて本森林を五區に分ちたり、而して田島が現在伐採しつゝあるは第五區なり。

▲立樹に日印　李王職は田島に枯損木を伐採せしむるに當り日印となるべき番號を施したり。而して右番號は一番より二千五百餘番迄の內なれども何しろ六千町步以上五十萬本以上の立樹に日印を施したるなれば同じ番號が幾本あればとて容易に發見せらるべきに非ず、而して記者の實見に因れば番號の附せられたるは枯損木のみに非ずして完全なる生木をも混ぜり。

▲間伐とは何　間伐とは同森林中特に密茂せる場所より五十本百本と間伐するなり、而して該間伐樹の認定は何人が爲し居るやと云ふに李王職技手谷川某之に當れるなり。

▲谷川技手の素性　同人は內地に於て某郵便局に奉職し、後ち安東縣營林廠に轉勤し、近き以前李王職技手として就任したる人なり。

▲伐採の監督　拂下木の伐採及び引渡しの監督事務は谷川技手外二名の鮮人吏員にて遂行し居れり。

▲田島の伐採數　現在田島の伐採したる樹木の數は口徑二尺五寸の物四百本餘なり、而して右四百本中枯損木は割合に尠なくして其多くは生木なり

▲樹木の長さ如何　伐採されたる樹木は各長短ありと雖も、記者の實見に因れば其多くは四間物及其以上なり、故に一本の松樹を伐倒せば一間物四本と枝をコナシたる新材若干とを生ずるなり。

▲生木と他木との混合　谷川技手及び二鮮人の有する僅か六箇の眼にて六千町步森林內に發生する總ての事件を監督せしめんとするは不可能なり、故に田島某にして枯損木間伐木に生木を混じて搬出するの不正を働かんとせば爲し能はざる事にあらず。

▲間伐木の認定　枯損木は讀んで字の如ければ林學上の智識を有せざるものと雖之れを知るに難からず、只夫れ間伐木の認定に到つては之れが伐採に就いて林學上に於ける專門の智識を有するを要す。而して現任認定者谷川技手なる人は營林廠に勤務したるの經歷を有するを以て林業上の智識は幾分之れを有するならんと察せらるると雖も林學上の智識に至つては之れを有するや否や甚だ疑問なり、而かも此疑問の谷川技手が國寶と稱せらるる森林中の間伐木認定の任に當る、李王職當局者が本森林の經營に關し世人より兎や角の評を受くる決して偶然に非ず。

▲田島源大の計畫　田島彥四郎が十月十五日付契約を以て拂下げを受けたる枯損木の數は僅かに二千五百本餘價格千九十餘圓のものなり、依つて思ふに該二千五百本を搬出する爲には若干の牛車若しくは雇用牛若干頭を使用すれば足れり、而るに田島は花山より餅店驛に到る四哩強道路の取擴げ工事及び三十間と二十間との二橋梁架設工事に投資し剩へ樹木運搬用として距離四哩強に幅十八インチなる十二ポンドの輕便鐵道布設の計畫を爲し現に花山餅店驛間に於ける一哩許りは輕鐵の布設既に竣工せり。

▲道路及架橋工事　花山より餅店驛に達する舊道路は謂ふ所の里道なるを以て其幅極めて狹し、今や田島は新材運搬業者吉田某及び里民等の共力を得て舊里道を四間幅の道路に改築せんとし目下其工事中なり、加ふるに田島は二橋梁の架設をも樽木組をして受負はしめ目下其工事進行中なり。

●大毎特派員の交送　大阪毎日新聞京城特派員豊田哲輔氏今回本社詰を命ぜられ來る二十日頃當地出發赴任の筈なるが右後任には同釜山特派員山口諫男氏に決定したる由なり

●秋場檢事の出發　平壤檢事院檢事に轉任を命ぜられたる檢事秋場格太郞氏は十三日午前九時南大門驛發任地へ赴く

●矢野書記官歸任　過般來釜山方面へ出張中なりし通信局矢野業務課長は十一日午前歸任せり

●高塚獸醫の歸期　補充馬受取の爲上京中なる憲兵司令部高塚獸醫は來る十五日歸任する由

●會長認氏の來京　東京中外通信社長會長認氏は十二日午前入時着の列車にて入京す

●東拓の新築落成式　既報東拓會社新築落成式は來る二十四日擧行の筈なりしも恰かも本月二十八日は會社創立後滿三ヶ年の紀念日に相當するを以て同日を期し盛大なる落成式を擧行する由

公人私人

▲岩本以明（判事）十一日天眞樓へ
▲水野悅造（森川慈惠病院長）十一日浦尾へ
▲鮎川克巳（三南新聞社長）十一日不知火へ
▲柴田良之助（辯護士）十一日不知火へ
▲三好唯吉（龍多商會支店主任）十一日巴城館へ

▲京城手形交換高▼

十二月	金高	枚數
十二日	三三〇、一四四、九一〇	一五六八

▲治外法權▼

現內閣が大々的行政整理を遂行すると云ふ噂がある、而かも此噂は遠からず實現することであらうが、政府は其整理の手を各殖民地、殊に我半島にまで及ぼす積りかドウカ▲世に行政整理と云へば種々の定義を附するものもあるが、記者の狹解する整理とは行政上の冗費節減の事だ▲ソコで所謂整理が我半島に迄及ぶものとして、扨總督府費に節減の餘地があるかドウカと云へば、ソレは何人も直ちに大有りと返答するであらう▲まづ第一に問題になるのは總督府官吏の在勤加俸だ、半島の今日は言はずと知れた、北海道も同樣、ソレに在勤加俸を與ふるのは何だか矛盾の樣だ▲現在に於ける總督の機密費は二十萬圓だソウだが、之れも統監府時代ならイザ知らず今日に於ては全然必要がなさすウだから削除してもよからう▲局課の廢合假令ば道廳及び郡廳の如きは現在の數を三分の一に減じて良からう▲特許保護銀行會社の補助金の如き、之れも全然廢止して良からう、ソコで彼れ是れ無用の費を省けば、總督府費中から四百萬圓は優に浮かすことが出來よう▲無用の費と云へば朝鮮銀行が、配當の補助を受け居る身を以て、一ヶ年二萬圓以上の宴會費を費かひ居るは途方もない話だ、而るに同行は朝鮮だけで宴會をやるばかりでは物足らぬと見ね今度は本場の大阪で大宴會を開き、寺內總督も之れに臨まるゝソウだ▲爲替尻決濟の資金に窮し、正貨準備に兎や角問題の起つて居る同行が、態々大阪まで出掛けて大宴會を開き、冗費の上塗をするとはドウ考へても氣狂の沙汰だ

俳句

●仁川卯月會席上即吟　會同人社

…▲題　炭、菊枯る、千鳥▼…

◎四點之部
川千鳥煩悶に夜の寢就れず　松園
皆が手を一度に引や走り炭　瓢月
炭買ふて戻ればぬくし臺處　梅園
契り深き露は氷りて菊枯る　里石
面白く早く千鳥の走りけり　踏南
聽き過て淋しう守る粉炭哉　李雨景

◎五點之部
外れて來て橋を横切る鵆哉　竹窓
色褪し手摺の竹や菊枯るゝ　雅亭
炭賣の腹の黒さよ粉の多き　一歪

◎六點之部
寢にせし障子は破て菊枯る　月宗
起き臥も鵆に馴つ須磨の人　枯柳

◎七點之部
雲燒けに磯を離るゝ千鳥哉　醉月
水音と共にかれゆく野菊哉　白翁

◎八點之部
闇へ洩る夜風わりなし川鵆　一骨
何よりも先へ持出す炭火哉　讃南

◎十點之部
菊と我と伏家に枯て無慘也　一滴

◎十一點之部
沖荒に月の凄味や鳴く千鳥　平凡作
月を呑む浪の荒磯千鳥なく　醉仙

◎十二點之部
炭に火の移らむとして匂ひ鳧　俳阿彌
菊枯て庭寂びわたる庵り哉　一骨

◎十三點之部
船人の聲幽かなり鳴く千鳥　竹賀
櫻炭花で譽め又茶で譽めつ　一歪
炭の香や謐る音能き窶れ釜　洪水

◎十六點之部
燒て後も香の退かず櫻炭　瓢月

◎十八點之部
引き汐に磯の遠退く千鳥哉　白翁
堅炭の灰に成る迄長居かな　柳好
群て來て浦邊に騒る千鳥哉　色葉

◎十九點之部
有が上に炭繼足すも馳走哉　一骨

◎廿二點之部
（人）朽ぬ名を札に遺して枯る菊　里石

◎廿四點之部
（地）枯れ果て破なき菊の姿かな　竹窓

◎卅三點之部
（天）打返す浪の裏於ふ千鳥可南　李雨景

（完）

西洋商話

これが本當の招猫

御神燈の蔭に招き猫を置いて縁起を祝ふ優しい商賣とは事異つた、或る帽子屋の驚く勿れ本物の猫を陳列窓に飾つて、大人氣を招いた最近の珍談、而も其猫は有名な米國の飛行家ウエルマン氏が亜米利加號に陪乘の光榮を得させた世界最初の飛行猫であつたから物見高い連中がワイ／＼押寄來たのも無理はない話で、奇拔も此位に行けば大したものだと賞めてもよからう

景品附京城聯合大賣出し

賣出期間 十二月一日ヨリ同月卅一日迄
抽籤場所 京城壽町 商業會議所
及同期日 明治四十五年一月七日
景品引換期間及ビ引換場所 自同年一月十日至同二十日 毎日自午前九時至午後四時 京城日本人商業會議所內

▲景品目錄▼

景品總額七千二百圓也

內譯

壹等 金千六百圓 四拾圓宛 償券 四拾本 壹萬本ニ付壹本ノ割
貳等 金八百圓 貳拾圓宛 同上 四拾本 同上
參等 金六百圓 拾五圓宛 各店商品切手 四拾本 同上
四等 金貳百圓 五圓宛 同上 四拾本 同上
五等 金貳千圓 五十錢宛 同上 四千本 百本ニ付壹本ノ割

以下空籤ナシ
但シ買上金壹圓毎ニ壹枚(現金賣ニ限ル)

京城聯合繁榮會

事務所 京城日本人商業會議所內

加盟店ハ一定ノ旗灯燈ヲ目標ト御承知被下度候



國寶「花山森林」を視る（二）

天眞生

攀り反り見る電氣瓦斯の發電所邊り斷崖絕壁をなして水無に松綠なり、形趣大ならざるぞ憾みなる、シカはあれど又一勝景たるを失はない、名論卓說を陳列して天下國家の事を議して居る間も岡田君は洋菓子を頰張り林檎を嚙る、不斷眼を窓外に放てば西湖の勝が展開されてある、モウ水原である、當時は影を西湖の水に浸して漣波渡る每に疊まれつ展びつして居る氣寒ければ樹中に放養さるゝと聞く鯉魚潑剌の影も見わず搭々又綜々として流れ出る排水口に瀧と懸りて去る水は今し吾等が探檢すべき花山の麓を繞る夫れぞとぞ聞く、着いた降りろ、無論だ降りる爲めに乘つたのだ、と一寸して無駄許り、自ら私に想ふ、斯樣調子で能く本日の使命を完ふすることが出來るだらうか、イヤでもオウでも完ふせねばならぬのだ、と思へば眞面目にならざるを得ぬ、驛前に出る、我等の一行威儀を繕ふて出て來る、局長我一行に向ひ『何にしに來たんだい』『鯉取りだ』『君に獲れる鯉があるかい』『西湖の鯉は君等にさへ食はれるだやないか』相見て哄笑して居る所へ水原模範農場長本田博士は依氏一行の出迎として來られたのを押し目下大問題となれる花山森林は李王職より貴下の校長たる農林學校の實習林？として其保護を貴下に托したりと云へり果して事實なるや此れを事實として貴下の保護の下に在る間森林が十五萬圓にて拂下げられたりとの大阪朝日新聞所載の記事は[illegible]博士は[illegible]を上げる[illegible]

苦笑久しうして曰く、貴下方の口から左樣な尋ねに與るとは恐れ入ります、併し恐れ入るとの意味は決して誤解下さるまいと信ずる、貴下が云はれたる如き事實は無く所分法の立案を託されたることあるのみ從つて十五萬圓拂下げ八十五萬圓の案分配當なんて、イヤ應うも愚うもウハヽヽ、イヤ應うも八十五萬圓は宜しうゴワス、ウフヽ、併し夫れは戯談として何うかアノ森林は全く國寶でゴワスから微苦茶に仕度ゴワせん、ヤ兎に角實地御踏査下さい、客來が無いと御一緒に參りますが生憎で……イヤ八十五萬圓は大閉口ツハヽヽ』と苦笑に苦笑を續けらるる『客と云ふのは鯉の客ですな』と申す次第でもゴワせんが『折角貴下が大きく成さると不心得の者共が自分所の生洲の樣に思ふて出掛けて來るのは御迷惑でしよう』『イヤ相變らず人の惡い事を、ワハヽヽ兎に角八十五萬圓を見て來て下さい』とある、博士屬官の配慮と原驛長の斡旋とに便宜を得て跡押附けし人車に朔風を突破して花山に向ふ。

●盛なり長唄嗜好會（三）

舞良秋衣

合奏と云ふは平たく云へば持寄世帶だ、鍋の中の煮物だ、砂糖も醬油も煮らるゝものも共に自分を捨てゝ協同的に動かなくては大變だ、夫れと同じく唄う人の聲に頓着なく彈かれたら如何に三味線は巧くとも全體に於て失敗である、當夜の牛田君の尺八は此難を免れまい太い如でも女の聲に合はせるのだから、モ少し音をコロして唄に隨いて欲しかつた、相手の聲が高く成る此方の音を張る相手が一段と調子を張る此方が音を[illegible]物だ、一寸見は惡からうが尺八も裏吹を用ひられたらばと思つたが素人考へかも知れぬ、拐縣が聞く淸華亭の若龍の『鞍馬山』三味線は伊勢江、ブレ三吉、語り口も確かりと未だ若い所はあれど近き將來に嘱望する、次が例の飛入り久保田の青木堂及び圓好の常盤津『道行蝶吹雪』お園六三、三味線は井門の政子、油氣無しのツブレ島田、イロ櫓下ヤと掛たい聲を吞み込んで見れば見る程『似合つたせオイ』と聲れかゝ浴せたは適評、アノ長い物をアレ程にコナス腕前おやない咽前『たまつを先立て』は逸まらしやんしたナア金さん、此れを後に聞く當日飛入を申込むや長唄とあれば格別乍ら常盤津では試驗濟の上ならではとて元老立合の上聞いた試驗に通つたのなりとか、極印附きの常盤津で御座アイ、東西ツ、

『秋の色草』井門の助六

糸は伊勢江、立派な出來なり、立派な出來なり『四季の眺』は花月の若一、勝利の唄伊勢江ツレ花月の桃太郎、殘念ながら若一は不出來なりし、勝利としても普通の出來、伊勢江の糸は駄評を要せず、唯り花月の桃太郎の聽前嗜窒ダシメクを食つてアツと許りに紋喉の聲を上げた、井門政子の唄、助六の絃で常盤津『戻橋』と云へば助六の絃に難あ[illegible]

●歲暮の贈答品（六）

……各商店主の談……

▲東亞煙草製品 進物用四百本箱入一箱富士一圓八十錢敷島芙蓉は共に一圓六十錢大和一圓三十錢朝日九十錢にて賣れ行き好況なり

▲前田陶器商店 先づ淸水伊萬里の茶器一圓より五六圓菓子器五十錢より二圓花瓶三圓より十圓重ね鉢一圓より三圓等上中下を通じて需要あり

▲海市商會 京城內の進物用としては人參飴三十五錢より一圓入參濱五十錢より一圓五十錢朝鮮飴三十五錢より四十五錢等にて內地行きとしては鶴の箸二十錢より七十錢鶴の罐詰五十錢鶴の箸パイプ六十五錢より三圓同笄七十錢より五圓位迄なるが大阪製の模造品を販賣するもの少なからず一見眞僞を判別し難ければ折角の御進物故御注意が肝要なり

▲百繭號 東髮用二枚櫛金蒔繪一圓より四圓石入三圓同簪用としては金蒔繪の笄三圓より五六圓肩掛二圓より五六圓半襟は一圓五十錢より三圓迄最も賣れ行き良く色は極く濃いものか極い淡いものが歡迎されます外には玩具類五十錢より二圓位迄です

▲津村兄弟商會 鶴の骨細工品殊に鶴の味噌漬鑵入七十錢より一圓五十錢の賣れ行き盛んにて其他雁一羽大一圓三十五錢小七十錢鴨、鴨番七十五錢等也

▲東西煙草商會 輸入防遏の目的を以て朝鮮葉の極上物にて製造したる金口スペシャル百本入一箱一圓二十錢コンテス百廿本一圓十五錢エキストラフアイン百本一圓スルタナ同九十錢にて風味は毫も輸入品に較べて遜色なく歲暮贈答品として續々御用命あり

と宜しかりしが今樣調の『空も霞みて』に到りしも總じて淡く美しく勇ましく大に光を放つて引き退がつた、背門の木君曰く『當日の聞き物でげす』と答へて曰く『御尤もでげす』『イ、左樣云ふ次第ではないので……』と辯解らしい口吻、芳木さんも御正直で（つゞく）

●[illegible]羽子板陳列

[illegible]流行は矢張役者の似顏繪が重なるものにて歌舞伎座十一月當り狂言の中將左衞門の佐々木盛綱八百藏の竹綱孝長其他各座の名優揃り羽子板物取扱へあり美人物にては元祿美人の三人立又は當世美人の粹を拔きたるものなど價段は一圓二三十錢より四圓位迄なりと

●伍廷芳水原に現る

▽松井參事官を携す

淸國に或る重大の任務を帶び當地を經濟て奉天に入り更らに遠く北京に入るべき外務省參事官松井慶四郎氏が出迎ひの官憲及同乘の紳士等と閑談に耽りつゝ水原驛に着したる時しも給仕は一葉の名刺を齎し松井氏に捧げた、此を受けた松井氏はサッと顏の色を變しツト立上つて一諸君、余の渡淸を感知した彼の外交部長は予の北京官憲と會談する以前に於て予を通じて我政府の意見方針を知らんと[illegible]を會談したし[illegible]ならば必ず革黨の機微を窺し好奇の眼を輝かし輕く立つて脫帽し待つ間もなく入り來るは伍廷芳氏と思ひきや京城日報外交部長上田白川なりしには一同開いた口が閉がらず『何程外交部長だ吁』

仲居評判記（九）

擲翠樓のお福

思ひ切つた改革を斷行し居の疑らぬ所で御贔負た引立を蒙つてる擲翠樓のお福は其改革と同時に內地から聘んだ仲居さんで生れ故郷の他土地を踏むのは此京城が初めてである相だ、其久しい間踏み馴れた土地の名は香川縣高松市四番町と云から無論士族出であらうが決して我々平民を捉へても『コリヤ平民』なんて氣味の惡いことは御云らずイツもニコ〳〵と極めて平民的な氣輕な方で御座る、京城の平民大に安心の出來る次第だ、イヤ平民萬歲ーツ、餘事は略致しまして本文に入る、本名は赤尾あさ當年二十八、人品の良い淑やかな折屈の正しい嗜好兼である、併し、と云つた風であるから別嬪の仲居衆に高慢とか何とか云ふ批評を受けて居はせぬかと探つて見たが九人居る仲居連皆んな折合が好いと云ふから種にならないのは殘念だが擲翠の爲めには結構である、お福さん相當の家に生れ可然處に嫁して當年八歲になる男の子を擧けたが不幸にして去る頃良人に死別れた、亡夫の紀念と此子を守り育て相當の教育を受けさせたさに今の身上となつたのであると云ふ、然もあらうか茶生花裁縫等も普通り三味も達者なものだ相だ、右の意味を以て熱心に勉強し獨息子の生長を樂んで居ると云へば此れはしたり評判記が身の上話になつたが兎角斯うした話は斯うなるもので御座るて。

●羅病娼妓の家出

▽恢復の見込なしとて

橫濱市平沼町三丁目生れ外川マス（二七）は去る十一月十一日より新町大和新地三州屋に抱へられ波次と名乘り第二種藝妓に從事し[illegible]の結果本月十一日の月曜の健康診斷に於て入院を命ぜられしに同日午後六時私事病氣全快の見込無之に付彼の所に行きます御主人に濟みません云々の遺書を殘き行衞不明なりとて搜查願提出したりと

●餘儀な事情の有ればこそ

▽人をも世も恨むまじきぞ

九日午後四時頃西部仁達坊都家洞六十五の一大德洞方門前に生後三四日に過ぎざる女兒を棄てたる者あり警官出張取調べたるも親許不明なれば同洞の張命基方に托して保護中十一日北部順化坊濟風橋三十七の四金德有なる者西大門分署に出頭養女として貰ひ受けたり

御歲暮用好適品

日本官製煙草

不二	（二十包入）定價	壹圓八拾錢
芙蓉	（箱二十包入）定價	壹圓六拾錢
敷島	（箱二十包入）定價	壹圓六拾錢
大和	（箱二十包入）定價	壹圓參拾錢
朝日	（箱二十包入）定價	九拾錢
ウエルス	（五十本入箱）定價	壹圓也

東亞煙草株式會社

●鳶口を頭へ打込

仁川支那町木村組人夫島本庄太郎は十一日海岸に於て艀より荷物陸上中擔運夫を雇ひ手傳はしめ居たる折柄細島組の雇鮮人來り突然該擔運夫を連去らんとせしより庄太郎は立腹紛ぎれに鳶口を以て細島組の雇鮮人の頭部を毆打せし騷ぎに警官出張取調の爲め双方の主人立合示談に濟みとなる

●南部署の嚴戒

犯罪統計に由れば例年春夏の候は殺人犯多く秋冬に向ふに及んで強竊盜等著しく殊に師走に入りては一層甚だしく盜難頻出するより南部署にては管內各署に命じ刑事巡查を督し夜警行せしめ其取締りを嚴にし居りと

●[illegible] 仁川[illegible]町三丁目[illegible]は十一日午前[illegible]

[illegible]へられ本圖に[illegible]販賣の[illegible]果思助は[illegible]金二十圓[illegible]は十圓の科料に處せらる

●間拔な落し物 仁川花町三丁目四番地山本熊藏は十一日午後七時頃新町通りに於て熊毛製の女肩掛を遺失し屆出づ

●擲翠樓主の寄附 擲翠樓主は郷里下關西細江町に巡查派出所建築落成に付建築費中に金十圓を寄附し十二日付にて南部警察署長の手を經て送付したりと

●忍び入つた[illegible] 仁川萬石洞六十三番地稻田利吉は十一日午前十一時二十分頃現金六十七圓を竊取されたる屆け出づ

●一川樓の開業 仁川敷島遊廓一川樓にては新築落成と共に內地より新たに數多の美妓を輸入し本日より開業すと

●演藝だより

▲浪花館 若遊三一行の落語、手踊り今晩の代狂言は小間物屋彦兵衞なりと

▲歌舞伎座

◎君の家庭を守れ

◀國家を愛する念は家庭を愛する念より生ず 家庭は吾人の城廓なり 家庭の神聖と威嚴を尊重せよ 婦人の深く慎むべきは化粧なり 俳優の化粧を眞似る可からず

獨クロン氏の著した「小倫敦人」と云ふ書物を見ると、「英國人の家庭は彼れの城廓なり」と云ふ語を冒頭にして普通何人と雖も巡査は此の限りにあらずだが故なく英人の私宅を訪るべきでない、上流の英國紳士は招待狀若しくは紹介狀を携へぬ未見人の來訪を以て、自由の侵害なりと思惟すと云ふ事が書いてあるが、此の數行の一節から伺つても英國の上流社會が如何に家庭の神聖と威嚴を尊重するかが知れる、米人ヘイト氏は其好著「路傍の富」中に國家を愛するの念は家族を愛する念より生ずるものであるから、眞正の愛國者は須らく家庭の改良に盡力せねばならぬと説き延いて市府及び國家をして善良なる家庭を作るを助けしめよと叫び何日米國々民は過去の進歩と將來の希望を家庭の嬉しさに求めねばならぬ、國民の成功と失敗は其の國の家庭に就て知ることが出來る從つて家庭は單に其の人の城廓なる許りか復實に國家の城廓であるとまで唱へて居る是に由て之を觀れば獨り英人に限らず外國人は總て家庭を尊重することが解る、

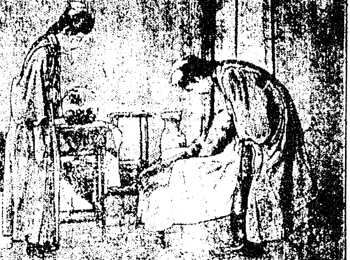


有名なるクラブ齒磨は現代紳士の愛用品なり

下田女史 婦人禮法 椅子に在る處に客來れば立ちて同權の禮をす

「家庭」の一語は外人の耳に如何に響くであらう、恐らくは曉々たる天女の奏樂よりも快く感ずるであらう、試に彼等に向つて地球上最も樂しき場所はと尋ぬるならば、彼等は躊躇せず言下に「スウヰートホーム」と答へるに違ひない、

……クラブ白粉……



禮節を重んずる家庭は凡てクラブ白粉を愛用せり

下田女史 婦人禮法 下部入る時は上座から下座は椅子を離れて敬禮す

富に輝く高樓も 貧に鎖せる茅屋も 嗚呼家庭 我等の住む家庭は 地球上最も樂しきものと知れ

の一句は家庭の快樂を遺憾なく謳つたもので、縦令物質上の要求に缺くる所があつても、家庭を想ふ眞情さへ深ければ如何なる茅屋をも神の宮殿に化することが出來る、隨つて家庭の趣味を解することが出來ぬ人は幸福な人、健全な人と言ふことが出來ぬばかりか人生をも完全に解することは出來ない。

家庭をして和氣藹々たるエデンの花園化せんことは、恐らく家庭を想ふ人の理想に相違ない、仍で樣々なる趣味を注入することが必要になつて來る音樂趣味を鼓吹するも宜しからうし、園藝趣味を奬勵する事も面白からう、其の他音樂、遊戯、演藝素より惡からう筈はなく、晩餐の卓を圍んで一家の人達が四方山の世間話などに談笑して居るのを見ても他所眼にも樂しく美しく映ずるものである、日本の家庭に於ては斯かる場合に屢々芝居の話や俳優の噂などが話頭に上せられる。芝居の話、俳優の風評は掃はないが近頃頗る寒心すべきことは、此の家庭に於ける常套な話頭を利用して不條理に俳優利丼の野卑なる化粧趣味を家庭に注入しやうと苦心して居る者があることである。

文明の進歩に伴ふて人類の趣味は多種多樣に赴くものであるから當然化粧趣味も普及發達させねばならぬが變態を生命とする俳優化粧を健全なる家庭に注入されては災難である我輩は變相術を主とする俳優の口から尤もらしい穿き違へた化粧談を聞かせられることを好まない、俳優の化粧が技巧を弄するものなることは識者の説明を俟たずして明かである俳優の化粧の必要なるは自己を放れて劇中の人に扮する爲めである、扮すると云ふのは化けることである、狐の化けると云ふことがあり得るとすれば俳優の化粧はそれと少しも異る所がない、此點において我輩は良家の子女が偽り多き俳優の化粧談を聽く場合に、眉毛に唾をされないと勸告せざるを得ぬ、要するに家庭趣味快樂は飽迄も促進せねばならぬが、家庭の主宰者たり主婦たる人は必ず家庭の神聖と威嚴を瀆毒されぬやうに常に高尚なと云ふ觀念の柵を以て俗惡卑陋の趣味が侵入して來るのを堰止めると同時に謹嚴の網を以て之を媒介若しくは感染せしむるやうな物品を引括つて家庭の内に侵入せしめぬやうに注意せねばならぬ

……クラブ洗粉……

家庭に於て讀まるべき書物ですら選擇を忽にしてはならぬと言はれて居る況や代替のない大切な身体を洗つたり皮膚に塗布する化粧品の如きものは、其選定に慎重の注意を加へなければならぬのは勿論である即ち素人は天賦の美を發揚するやう化粧の本義を念頭に置いて、皮膚には其の發育を助け日々顔色を增進すクラブ洗粉を使用し口中には其の衛生と齒牙に卓効あるクラブ齒磨を用ひて第一に身体の清浄と自然美を磨くことを計り第二にクラブ白粉や其他のクラブ化粧品を以て、高尚優雅なる化粧美を添ふるやうに努めなければならぬ、かくてこそ神聖の家庭に在ても恥かしからぬ一點汚れなき眞の美しさを發揮することが出來やう(エス生)

滑きめを以て女子の美を愛護する家庭は必ずクラブ洗粉を常用す

下田女史 婦人禮法 椅子にかけたる人に對する下座の禮